

1

解答解説のページへ

xy 平面上の 3 点 $A(0, 1)$, $B(-1, 0)$, $C(1, 0)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の内接円を T とする。点 $D(0, -1)$ を通り、傾きが正である直線を $l: y = ax - 1$ とする。

- (1) 円 T の半径を r とする。 r を求めよ。
- (2) 直線 l と円 $x^2 + y^2 = 1$ の交点のうち、 D と異なる点を E とする。点 E の座標を a を用いて表せ。
- (3) 直線 l が円 T に接するとする。このとき、(2) で求めた点 E を通り、 x 軸と平行な直線が、円 T に接することを示せ。

2

解答解説のページへ

xy 平面において、円 $x^2 + y^2 = 1$ の $x \geq 0$ かつ $y \geq 0$ を満たす部分を C_1 とする。また、直線 $y = x$ の $x \leq 0$ を満たす部分を C_2 とする。 C_1 上の点 A 、 C_2 上の点 B および点 $P(-1, 0)$ について、 $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ であるとする。点 A の座標を $(\cos \theta, \sin \theta)$ とする。

ただし $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ とする。

- (1) 点 B の x 座標を θ を用いて表せ。
- (2) 線分 AB の midpoint の x 座標が 0 以上であるような θ の範囲を求めよ。

3

解答解説のページへ

O を原点とする xy 平面上に 2 直線 $l: y = \sqrt{3}x$, $m: y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$ がある。正の整数 n に対して、 l 上に点 $P_n(n, \sqrt{3}n)$ をとり、 m 上に点 $Q_n(x_n, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_n)$ をとる。ただし、 $x_n (n=1, 2, 3, \dots)$ は次の条件(I), (II)を満たすとする。

(I) $x_1 = 1$ である。

(II) $n \geq 2$ のとき、 x_n は、 Q_{n-1} を通り l と平行な直線と、 x 軸との交点の x 座標である。

また、正の整数 n に対して、 $\triangle OP_nQ_n$ の面積を a_n とする。

(1) x_n を n を用いて表せ。

(2) a_n を n を用いて表せ。

(3) 正の整数 n に対して、 $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$ と定める。 S_n を n を用いて表せ。

4

解答解説のページへ

関数 $f(\theta)$, $g(\theta)$ を, $f(\theta) = \sin\theta - \frac{\sqrt{2}}{2}$, $g(\theta) = \sin 2\theta$ と定める。 xy 平面上の曲線 C が, 媒介変数 θ を用いて

$$x = f(\theta), \quad y = g(\theta) \quad \left(0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}\right)$$

で表されている。

(1) 次の定積分 I_1 , I_2 , I_3 の値を求めよ。

$$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos 2\theta d\theta, \quad I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta \cos 2\theta d\theta, \quad I_3 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos 2\theta d\theta$$

(2) $\frac{dy}{dx}$ を θ の関数として表し, 曲線 C の概形を xy 平面上に描け。

(3) 曲線 C , x 軸および y 軸で囲まれた図形を, y 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を求めよ。

5

解答解説のページへ

数列 $\{a_n\}$ が、 $a_1 = \frac{c}{1+c}$ 、 $a_{n+1} = \frac{1}{2-a_n}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) を満たすとする。ただし、

c は正の実数である。

- (1) a_2, a_3 を求めよ。
- (2) 数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n を求めよ。
- (3) $\sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{a_{n+1}}{a_n} - 1 \right)$ を求めよ。

6

解答解説のページへ

i は虚数単位とする。複素数 z に対して、その共役複素数を \bar{z} で表す。複素数平面上で、次の等式を満たす点 z の全体が表す図形を C とする。

$$z\bar{z} + (1+3i)z + (1-3i)\bar{z} + 9 = 0$$

以下の問いに答えよ。

- (1) 図形 C を複素数平面上に描け。
- (2) 複素数 w に対して、 $\alpha = w + \bar{w} - 1$ 、 $\beta = w + \bar{w} + 1$ とする。 w 、 α 、 β が表す複素数平面上の点をそれぞれ P 、 A 、 B とする。点 P は C 上を動くとする。 $\triangle PAB$ の面積が最大となる複素数 w 、およびそのときの $\triangle PAB$ の外接円の中心と半径を求めよ。

1

- (1) 3点 $A(0, 1)$, $B(-1, 0)$, $C(1, 0)$ を頂点とする $\triangle ABC$ に対して, その内接円 T の半径を r とすると, $AB = AC = \sqrt{2}$, $BC = 2$ から,

$$\frac{1}{2}(\sqrt{2} + \sqrt{2} + 2)r = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 1, \quad (\sqrt{2} + 1)r = 1$$

これより, $r = \frac{1}{\sqrt{2} + 1} = \sqrt{2} - 1$ となる。

- (2) 直線 $l: y = ax - 1$ ……①と円 $x^2 + y^2 = 1$ を連立して,

$$x^2 + (ax - 1)^2 = 1, \quad (a^2 + 1)x^2 - 2ax = 0$$

$x \neq 0$ の解は $x = \frac{2a}{a^2 + 1}$ となり, ①から $y = a \cdot \frac{2a}{a^2 + 1} - 1 = \frac{a^2 - 1}{a^2 + 1}$

よって, $E\left(\frac{2a}{a^2 + 1}, \frac{a^2 - 1}{a^2 + 1}\right)$ となる。

- (3) (1)から, 二等辺三角形 ABC の内接円 T の中心の座標は $(0, \sqrt{2} - 1)$, 半径は $\sqrt{2} - 1$ であり, $l: ax - y - 1 = 0$ ($a > 0$) が円 T に接する条件は,

$$\frac{|a \cdot 0 - (\sqrt{2} - 1) - 1|}{\sqrt{a^2 + 1}} = \sqrt{2} - 1, \quad \sqrt{2} = (\sqrt{2} - 1)\sqrt{a^2 + 1}$$

これより, $a^2 + 1 = \left(\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{2} - 1}\right)^2 = (2 + \sqrt{2})^2 = 6 + 4\sqrt{2}$ となり,

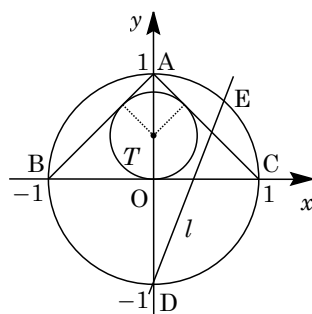
$$\frac{a^2 - 1}{a^2 + 1} = \frac{4 + 4\sqrt{2}}{6 + 4\sqrt{2}} = \frac{2 + 2\sqrt{2}}{3 + 2\sqrt{2}} = \frac{(2 + 2\sqrt{2})(3 - 2\sqrt{2})}{9 - 8} = -2 + 2\sqrt{2}$$

すると, 点 E を通り x 軸と平行な直線の方程式は $y = -2 + 2\sqrt{2}$ ……②であり, T の中心 $(0, \sqrt{2} - 1)$ との距離は, $(-2 + 2\sqrt{2}) - (\sqrt{2} - 1) = \sqrt{2} - 1$ となり, T の半径に等しい。よって, 直線②は内接円 T に接する。

[解説]

円と直線についての基本題です。(1)は面積を利用しましたが, 他の方法もいろいろ考えられます。

問題のページへ



2

問題のページへ

(1) $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$, $t \leq 0$ として, $A(\cos \theta, \sin \theta)$, $B(t, t)$,

$P(-1, 0)$ に対し,

$$\overrightarrow{PA} = (\cos \theta + 1, \sin \theta), \quad \overrightarrow{PB} = (t + 1, t)$$

ここで, $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ なので, $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} = 0$ となり,

$$(t + 1)(\cos \theta + 1) + t \sin \theta = 0$$

$$(\sin \theta + \cos \theta + 1)t + (\cos \theta + 1) = 0$$

$\sin \theta + \cos \theta + 1 > 0$ から $t = -\frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1}$ となり, この値は $t \leq 0$ を満たす。

よって, 点 B の x 座標は $x = -\frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1}$ である。

(2) 線分 AB の中点の x 座標が 0 以上より, $\frac{1}{2} \left(\cos \theta - \frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1} \right) \geq 0$ となり,

$$\cos \theta (\sin \theta + \cos \theta + 1) - (\cos \theta + 1) \geq 0, \quad \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta - 1 \geq 0$$

$$\sin \theta \cos \theta - \sin^2 \theta \geq 0, \quad \sin \theta (\cos \theta - \sin \theta) \geq 0 \cdots \cdots (*)$$

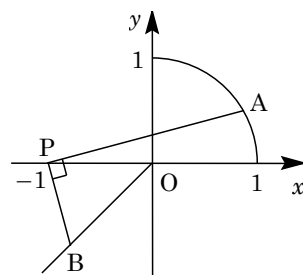
ここで, $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ より $\sin \theta \geq 0$ となり,

(i) $\sin \theta = 0$ ($\theta = 0$) のとき (*) は成立する。

(ii) $\sin \theta > 0$ ($0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$) のとき (*) から $\cos \theta - \sin \theta \geq 0$

すると, $\cos \theta \geq \sin \theta$ から $0 < \theta \leq \frac{\pi}{4}$ となる。

(i)(ii) より, 求める θ の範囲は $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$ である。



[解説]

三角関数の図形への応用問題です。基本的な内容ですが, (2)の詰めは要注意です。

3

問題のページへ

- (1) 直線 $l: y = \sqrt{3}x$ 上に点 $P_n(n, \sqrt{3}n)$, $m: y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$ 上に点 $Q_n(x_n, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_n)$ をとる。

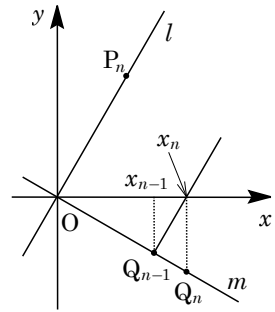
$n \geq 2$ のとき, 点 $Q_{n-1}(x_{n-1}, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1})$ を通り l と平行な直線の方程式は,

$$y + \frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1} = \sqrt{3}(x - x_{n-1})$$

この直線と x 軸との交点の x 座標が x_n より,

$$\frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1} = \sqrt{3}(x_n - x_{n-1}), \quad x_{n-1} = 3(x_n - x_{n-1})$$

これより $x_n = \frac{4}{3}x_{n-1}$ となり, $x_1 = 1$ から $x_n = x_1 \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1} = \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1}$ である。



- (2) $\triangle OP_nQ_n$ の面積を a_n とすると, $l \perp m$ から,

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{2} OP_n \cdot OQ_n = \frac{1}{2} \sqrt{n^2 + 3n^2} \cdot \sqrt{x_n^2 + \frac{1}{3}x_n^2} = \frac{1}{2} \cdot 2n \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} |x_n| \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}} n \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1} = \frac{2}{\sqrt{3}} n \cdot \frac{3}{4} \left(\frac{4}{3}\right)^n = \frac{\sqrt{3}}{2} n \left(\frac{4}{3}\right)^n \end{aligned}$$

- (3) (2) より, $S_n = \sum_{k=1}^n a_k = \frac{\sqrt{3}}{2} \sum_{k=1}^n k \left(\frac{4}{3}\right)^k$ となり, $T_n = \sum_{k=1}^n k \left(\frac{4}{3}\right)^k$ とおくと,

$$\begin{aligned} T_n - \frac{4}{3}T_n &= 1 \cdot \frac{4}{3} + (2-1)\left(\frac{4}{3}\right)^2 + \cdots + \{n - (n-1)\}\left(\frac{4}{3}\right)^n - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} \\ &= \frac{4}{3} \cdot \frac{\left(\frac{4}{3}\right)^n - 1}{\frac{4}{3} - 1} - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} = 4\left\{\left(\frac{4}{3}\right)^n - 1\right\} - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} \\ &= \left(4 - \frac{4}{3}n\right)\left(\frac{4}{3}\right)^n - 4 \end{aligned}$$

すると, $-\frac{1}{3}T_n = \left(4 - \frac{4}{3}n\right)\left(\frac{4}{3}\right)^n - 4$ から, $T_n = 4(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 12$ となり,

$$S_n = \frac{\sqrt{3}}{2}T_n = \frac{\sqrt{3}}{2}\left\{4(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 12\right\} = 2\sqrt{3}\left\{(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 3\right\}$$

[解説]

数列の図形への応用題です。平易な内容ですが, (3)で(等差) \times (等比)のタイプの和が出現しますので, 計算ミスを防ぐために細心の注意が必要です。

4

問題のページへ

$$(1) \text{ まず, } I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos 2\theta d\theta = \frac{1}{2} [\sin 2\theta]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{1}{2} \text{ となり,}$$

$$\begin{aligned} I_2 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta \cos 2\theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} (2\cos^2 \theta - 1) \sin \theta d\theta = \left[-\frac{2}{3} \cos^3 \theta + \cos \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= -\frac{2}{3} \left(\frac{\sqrt{2}}{4} - 1 \right) + \left(\frac{\sqrt{2}}{2} - 1 \right) = \frac{\sqrt{2}}{3} - \frac{1}{3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I_3 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos 2\theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 - \cos 2\theta}{2} \cdot \cos 2\theta d\theta \\ &= \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\cos 2\theta - \cos^2 2\theta) d\theta = \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\cos 2\theta - \frac{1 + \cos 4\theta}{2} \right) d\theta \\ &= \frac{1}{4} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\cos 4\theta + 2\cos 2\theta - 1) d\theta = \frac{1}{4} \left[-\frac{1}{4} \sin 4\theta + \sin 2\theta - \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \frac{1}{4} \left(1 - \frac{\pi}{4} \right) = \frac{1}{4} - \frac{\pi}{16} \end{aligned}$$

$$(2) \text{ } C: x = \sin \theta - \frac{\sqrt{2}}{2}, \quad y = \sin 2\theta \text{ において,}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = \cos \theta, \quad \frac{dy}{d\theta} = 2\cos 2\theta$$

$$\text{よって, } \frac{dy}{dx} = \frac{2\cos 2\theta}{\cos \theta} \text{ となる.}$$

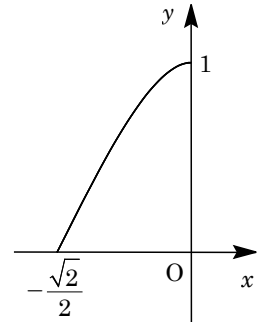
さて, $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$ における x, y の増減は右表のようになる。そして, $\theta = 0$ のとき $\frac{dy}{dx} = 2$, $\theta = \frac{\pi}{4}$ のとき $\frac{dy}{dx} = 0$, $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$ のとき $\frac{dy}{dx} > 0$ に注意して曲線

θ	0	...	$\frac{\pi}{4}$
$\frac{dx}{d\theta}$	1	+	$\frac{\sqrt{2}}{2}$
x	$-\frac{\sqrt{2}}{2}$	\nearrow	0
$\frac{dy}{d\theta}$	2	+	0
y	0	\nearrow	1

C の概形を描くと, 右図の曲線となる。

(3) 曲線 C , x 軸および y 軸で囲まれた図形を, y 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V は, (1) の結果を利用して,

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^1 x^2 dy = \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\sin \theta - \frac{\sqrt{2}}{2} \right)^2 \cdot 2\cos 2\theta d\theta \\ &= 2\pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\sin^2 \theta - \sqrt{2} \sin \theta + \frac{1}{2} \right) \cos 2\theta d\theta \\ &= 2\pi \left\{ \left(\frac{1}{4} - \frac{\pi}{16} \right) - \sqrt{2} \left(\frac{\sqrt{2}}{3} - \frac{1}{3} \right) + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} \right\} = \left(\frac{2}{3} \sqrt{2} - \frac{1}{3} - \frac{\pi}{8} \right) \pi \end{aligned}$$



[解説]

パラメータ曲線の y 軸回転体について, その体積計算の問題です。(1) の定積分の値が, ストレートに適用できます。

5

問題のページへ

(1) $a_1 = \frac{c}{1+c}$, $a_{n+1} = \frac{1}{2-a_n}$ ($n=1, 2, 3, \dots$) に対して,

$$a_2 = \frac{1}{2-a_1} = \frac{1}{2-\frac{c}{1+c}} = \frac{1+c}{2+c}, \quad a_3 = \frac{1}{2-a_2} = \frac{1}{2-\frac{1+c}{2+c}} = \frac{2+c}{3+c}$$

(2) (1)から $a_n = \frac{n-1+c}{n+c}$ と推測でき, この式が正しいことを数学的帰納法で示す。

(i) $n=1$ のとき $a_1 = \frac{1-1+c}{1+c} = \frac{c}{1+c}$ より成立している。

(ii) $n=k$ のとき $a_k = \frac{k-1+c}{k+c}$ と仮定すると,

$$a_{k+1} = \frac{1}{2-a_k} = \frac{1}{2-\frac{k-1+c}{k+c}} = \frac{k+c}{k+1+c}$$

よって, $n=k+1$ のときも成立している。

(i)(ii)より, すべての自然数 n に対して, $a_n = \frac{n-1+c}{n+c}$ である。

(3) まず, $S_n = \sum_{k=1}^n \left(\frac{a_{k+1}}{a_k} - 1 \right)$ とおくと,

$$\begin{aligned} \frac{a_{k+1}}{a_k} - 1 &= \frac{k+c}{k+1+c} \cdot \frac{k+c}{k-1+c} - 1 = \frac{(k+c)^2 - (k+1+c)(k-1+c)}{(k+1+c)(k-1+c)} \\ &= \frac{(k+c)^2 - \{(k+c)^2 - 1\}}{(k+1+c)(k-1+c)} = \frac{1}{(k+1+c)(k-1+c)} \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+k-1} - \frac{1}{c+k+1} \right) \end{aligned}$$

これより, $S_n = \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{c+k-1} - \frac{1}{c+k+1} \right)$ となり,

$$\begin{aligned} S_n &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c} - \frac{1}{c+2} \right) + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+1} - \frac{1}{c+3} \right) + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+2} - \frac{1}{c+4} \right) + \dots \\ &\quad + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+n-2} - \frac{1}{c+n} \right) + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+n-1} - \frac{1}{c+n+1} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c} + \frac{1}{c+1} \right) - \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c+n} + \frac{1}{c+n+1} \right) \end{aligned}$$

以上より, $\sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{a_{n+1}}{a_n} - 1 \right) = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{c} + \frac{1}{c+1} \right) = \frac{2c+1}{2c(c+1)}$ である。

[解説]

誘導から予測できますが, 推測→証明のタイプの漸化式が題材になっています。

6

問題のページへ

(1) $\bar{z}z + (1+3i)z + (1-3i)\bar{z} + 9 = 0 \cdots \cdots (*)$ に対して、 $\gamma = 1-3i$ とおくと、

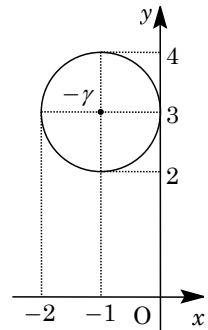
$$\bar{\gamma} = 1+3i, \quad \gamma\bar{\gamma} = 1^2 + (-3)^2 = 10$$

(*) から、 $\bar{z}z + \bar{\gamma}z + \gamma\bar{z} + \gamma\bar{\gamma} - 1 = 0$, $(z+\gamma)(\bar{z}+\bar{\gamma}) = 1$ となり、

$$|z+\gamma|^2 = 1, \quad |z-(-\gamma)| = 1$$

よって、点 z は点 $-\gamma = -1+3i$ を中心とする半径 1 の円を描く。

そこで、点 z の全体が表す図形を C とすると、 C は複素数平面上で右図のようになる。



(2) 複素数 w に対して、 $\alpha = w + \bar{w} - 1$, $\beta = w + \bar{w} + 1$ とし、

$P(w)$, $A(\alpha)$, $B(\beta)$ とおく。そして、 $w = x + yi$ とおくと、

$$\alpha = (x + yi) + (x - yi) - 1 = 2x - 1, \quad \beta = (x + yi) + (x - yi) + 1 = 2x + 1$$

これより、 $A(\alpha)$, $B(\beta)$ はともに実軸上にあり、

$$AB = |\beta - \alpha| = |(2x + 1) - (2x - 1)| = 2$$

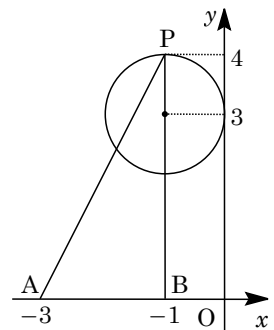
すると、 $\triangle PAB$ の面積が最大となるのは、点 P が C 上を動くことから、 P と実軸との距離が最大になるとき、すなわち $w = -1 + 4i$ のときである。

そして、 $x = -1$ から $\alpha = -2 - 1 = -3$, $\beta = -2 + 1 = -1$ となり、 $\triangle PAB$ は $\angle B = 90^\circ$ の直角三角形である。

よって、 $\triangle PAB$ の外接円の中心は、 PA の中点となり、

$$\frac{1}{2}\{(-1 + 4i) + (-3)\} = -2 + 2i$$

また、半径は、 $|(-2 + 2i) - (-3)| = |1 + 2i| = \sqrt{1^2 + 2^2} = \sqrt{5}$ となる。



[解説]

複素数平面上の円のついで標準的な問題です。(1)は、結論を承知のうえでの変形ですが、普通に $z = x + yi$ を代入しても構いません。